

Uターン・Iターン就農者(新規参入者)調査

1. 氏 名(ふりがな) 稲森 章志 (いなもり しょうじ)
稲森 美智子(いなもり みちこ)さん
2. 就農場所(市町名) 長崎県北松浦郡小値賀町笛吹郷

3. 家族構成(労働力人数)

本人、妻、子 (1歳) (労働力は2人)

4. 就農年月

平成21年4月(平成19年から小値賀町担い手公社で2年研修)

就農前は三重県亀山市の工場勤務(農業経験なし)

5. U・Iターンのきっかけ

インターネットで小値賀町担い手公社を知りました。

元々自分で作ったものが人に喜ばれる職業がしたくて農業をやりたいかった。

下見に来て、住居、作物、機械等を確認して研修を申し込みました。

6. 作目の選定

収入が上がるもので、一定期間収入があること。 公社でミニトマト、ブロッコリー、甘しょを学んだこと 小面積で収入が上がること

7. 経営作物(主なもの、面積)

ミニトマト 15a 米 11a、(ブロッコリー20a:現在作っていません)

野菜は自給程度作っています。

8. 収穫量 7.8t(8割が委託販売、2割を農協と一部町内の直売所や店に)

12t/15aが当面の目標...将来は12t/10aを目指したいです。

9. 就農時の苦労

担い手公社で農業の基礎知識・技術を学びました。

ハウス建設は県や町に支援を受けて整備しました。(県1/2、町1/4、自己1/4)

小農具は、近代化資金を活用して整備しました(8年償還、据置なし)

研修は実践がほとんどで、実際に作物の栽培を行います。農業経営についての勉強も年に数回行われます。

農業経営に必要な機械も公社が貸してくれます。ブロッコリーの播種機も公社の物を使います。

就農するにあたり研修中の給料を積み立てて営農開始の資金にしました。

ハーベスターを近所の方から貰いました。地域との繋がりは大事だと思います。住居を借りる時にも公社のお世話になりました。

野菜は待ってくれませんから、基本的に休みがありません。ミニトマトは収穫が終わってから6月~8月、定植後の収穫前までは余裕があります。

担い手公社の指導員が近くにいるので助かります。人脈は農業にはとても大切だと思います。研修を受けられなかったら農業はできません。とても良い人に恵まれました。

10. 現状(生産量、主な作業体系で留意するもの)

病気と虫に気を付けています。



11. 農業を行う上での楽しさ、厳しさ

自分で育てることで成功すると嬉しいです。失敗も自分の責任ですので思い通りいったときは充実感があります。

自分の作ったもので喜んでもらえた顔を見たら嬉しいです。

経営はまだ赤字ですが、やりがいがあります。

農業簿記の研修を受けたことは役に立っています。記録は重要です。

トマト狩りをしてもらうなど近所との普段の付き合いも大事にしています。

12. 将来の構想、新しい取組など

現状の施設で目標収量は12tなので収量を増やすこと。

技術が重要です。(樹勢を落とさないこと、病気を出さないこと)

夏場の収入がないので、何か他品目を作りたい。

13. これから就農をめざす人たちに一言

思い切ることです。やる気がないと続きません。

露地はきついです。収入も少ないですので、収入の上がる作物を選ぶ方がいいと思います。

周りの人とのつきあいを大事にすること。教えてもらうこともあると思います。